



『赤馬鈴薯出荷組合総会開催 未来につながる産地づくりへ』

東広島市安芸津町の赤馬鈴薯出荷組合は5月9日、同市立木谷小学校で令和8年度の通常総会を開催しました。生産者やJA、広島県、東広島市など約70名が参加し、令和8年度事業計画など2議案を満場一致で決定しました。国重浩二組合長は、「物価の高騰や夏場の高温など、産地には依然厳しい状況が続いているが、JAや行政の力を借りながら資材のコスト削減や、新しい技術を積極的に利用するとともに、生産者も協力して出荷作業をすすめることで、産地の維持・発展に努力していきたい」と今後を見据えておられました。



▲赤馬鈴薯出荷組合総会



へちま、おおきくなあれ!! へちまでエコたわし みんなでやろう、SDGs

JA女性部芸南地区本部は、管内の幼稚園や保育所の園児たちにSDGsの輪を拡げる取り組みを行っています。

同女性部は、天然素材のへちまを使った食器洗いスポンジを使うことで、海に流出するマイクロプラスチックの削減を呼びかけます。

今年度は新たに呉市の安浦幼稚園で、へちま苗の栽培をはじめました。6月3日に沖野由香部長が手作りの紙芝居を使い「つみを、まもろう!」と呼びかけました。園児たちは、部員やJA職員と一緒に苗の植え付けを行い「たくさんできますように!!」と水やりを行いました。



▲6月3日 呉市安浦幼稚園:手作り紙芝居



水稲 7月

病害虫防除：出穂前の病害虫管理の重要な時期となります。

いもち病・紋枯病・ウンカ類および雑害虫の予防に努めましょう。

●防除例

《粉剤使用の場合》

・トレバリグビーム粉剤DL
(10a当たり3〜4kg 収穫14日前まで、使用回数3回以内)

《粒剤使用の場合》

・ゴウケツモンスター粒剤
(10a当たり3kg 出穂5日前まで、ただし収穫45日前まで、使用回数1回)

《豆つぶ剤使用の場合》

・ワイドパンチ豆つぶ
(10a当たり250g 収穫35日前まで、使用回数1回)

《液剤使用の場合》

・アミスタートレボンSE
1,000倍液
(10a当たり60〜150ℓ 収穫14日前まで、使用回数3回以内)
※いずれも出穂完了前の早期防除を心がけましょう。

水管理：無効分けつを止め、根の動きを盛んにするために、田植後40日前後で（有効茎の確保ができた）田の表面に少し亀裂が入る程度に中干しを行います。また、中干し後の雑草駆除にも注意しましょう。

水稲問 安浦店

TEL 0823-84-2049

担当 桑原 伸明

野菜 7月

病害虫防除：梅雨明け時期の7月は、高温多湿で病害虫が多発します。薬剤防除は日中に行うと高温で薬害が出やすくなるため早朝か夕方に行いましょう。薬剤は植物体に付着し、乾いてから効果が発現します。なるべく天気の良い日を選び、散布直後に降雨があったら薬剤が流れ落ちるので、後日、再度防除を計画しましょう。

散布作業は、株元から先端にむけて噴霧し、特に葉裏を丁寧に散布しましょう。

その他：梅雨明け後に天候が良くなる乾燥で土壌の水分が減りやすくなります。株元へ不織布や敷きワラ等を敷くと、乾燥を防ぎ安定した生育につながります。

《7月の種まきのおすすめ》

暑くなると作業もしづらく、つい種まきを減らしてしまいがちですが、夏〜初秋向けとして、以下の作物を作付けしてみませんか？

(品種については各メーカーの作型を見てください。)

7月に開始する作物の例

- ・ニンジン
(7月末に種まきすると10月収穫開始)
- ・コマツナ・ミズナ・チンゲンサイ
(種まき後約1か月で収穫開始)
- ・トウモロコシ90日型
(7月に種まきすると9月収穫開始)

野菜問 営農経済課

TEL 0846-45-3360

担当 久保 勝義

《生産工程管理日誌は必ず提出しましょう！》

生産工程管理日誌は次期作の栽培計画に利用できるほか、事故から生産者・消費者を守る大事な記録です。農薬使用は細心の注意を払い、正確な記入・提出をお願いします。

果樹 8月

かんきつ

●病害虫防除

今月の病害虫対策として、ミカンバエ対策と黒点病対策が重要になります。

ミカンバエ防除は、8月上旬〜中旬にモスピラン顆粒水溶剤(劇)4,000倍液と8月下旬にスタークル顆粒水溶剤2,000倍液を必ず散布しましょう。また、8月下旬には黒点病対策として、ペンコゼブ水和剤600倍液(または、ジマンガイセン水和剤600倍液)、ミカンハダニ・サビダニ対策としてカネマイトフロアブル1,500倍液、サンマイト水和剤(劇)3,000倍液を混用散布しましょう。どちらの防除にも品質向上(浮皮軽減・果皮強化)のためにカルピタP770倍液を混用しましょう。



●フィガロンの散布で品質向上!!

8月下旬は、熟期促進・品質向上目的の2回目の散布時期となります。樹勢の強い樹に、フィガロン液剤3,000倍液と樹勢維持対策で葉面マグ600倍液を混用散布しましょう。

暑い時期の作業となりますので、体調に十分注意しながら防除作業を行います。

中晩柑類（特に、レモン・ネーブル・はるみ・はれひめ等）は、かいよう病罹病性品種のため、台風前にクプロシールド2,000倍液を散布しましょう。

今月の防除作業の重点となるのは、黒点病の発生予防です。黒点病は枯れ枝が降雨にあたることにより滴り落ちる雨粒を通して感染します。高い位置にある枯れ枝の除去や降雨前の薬剤散布をしっかりと行いましょう。（レモンを早期に出荷される方は、黒点病防除薬剤の収穫前日数に注意し散布しましょう。）

びわ

●収穫後のせん定

果痕枝（収穫後の枝）から発生した2〜3本の新梢は外向きの芽を残し、それ以外は一葉残してせん定し、来年の予備枝とします。

●病害虫防除

8月下旬にアブラムシ類対策としてモスピラン顆粒水溶剤（劇）2,000倍液と、カイガラムシ類対策としてアタックオイル100倍液を混用散布しましょう。

いちじく

●かん水

いちじくは収穫直前に急激に肥大するため、収穫期間中でも土壌が乾燥しているようであれば、適宜かん水を行いましょう。（目安：無降雨日が7〜10日以上続く場合）

●収穫について

収穫は気温の低い早朝に行いましょう。（収穫後の糖度・品質保持性が違います。）

降雨後の果実は傷みが多く、果汁が出ていようであれば腐敗している可能性があるため気を付けましょう。傷を付けないように果実の根元に近い

部分に軽く指をかけ、持ち上げ気味に収穫を行いましょう。収穫後は果実同士が接触しないように、また直射日光を当てないようにしましょう。腐敗果実を放っておくと病害虫の発生要因となりますので、園外に持ち出してから処理しましょう。

●農薬使用の注意点

- ・使用者自身の安全を確保するため、農薬の製品ラベルに従った保護具を着用しましょう。
- ・周辺住民・周辺環境への安全を確保するため、周辺住民や農家に配慮し掲示版などで農薬の使用を事前に伝え、農薬が飛散してかからないように注意しましょう。
- ・作物の残留農薬が問題となっており、農薬の製品ラベルに従い、決められた作物種、使用量、使用時期、使用回数などを確実に守れば基準値を超えることはありません。ただし、農薬ごとに作物名が似ているなど、間違いやすいものがありますので、慎重に注意し使用しましょう。

果樹問 安芸津アグリセンター
TEL 0846-4510488
担当 J A広島果実連株
駐在技術員 鎌田 悠誠

2026年7月 苗販売情報



128穴セルトレイ



（商品例）キャバツ苗

J A安芸津アグリセンターでは、直売所などJ A出荷者の支援として、128穴セルトレイでの野菜苗の生産・供給を行っています。

数に限りがありますので、お早目にお問い合わせ頂きぜひご利用ください。

今月の供給品目

品目名	品種名	販売予定	収穫予定
キャバツ	初秋	7月中旬～	9月中旬～

※在庫・価格等詳細については随時お問い合わせください。
※特注品についても相談の上、対応いたします。

自然に恵まれ「人と人との豊かな生活」がそこにある

あなたとわたしの
ふれあい市



JAひろしま ふれあい市安芸津店

東広島市安芸津町風早647番地 8

ふれあい市は、『農業者の所得増大』『農業生産の拡大』
『地域の活性化』を基本目標とし、地産地消に取り組んでいます。



7月の
おすすめ

夏真っ盛り! ギラギラした太陽がまぶしいですね!
ジトジトした梅雨から一転、熱中症に注意が必要です。
みなさん対策はされていますか?

トマト



桃



キュウリ



ナスビ



スイカ



熱中症の対策も重要ですが、ビタミンCの摂取も大事です。
夏はたくさん汗をかくため、水溶性のビタミンCは体外へ
排出されやすいのです。

夏バテ防止のため、トマト、ピーマン、オクラやスイカを
食べて猛暑を乗り切りましょう。

ふれあい市ではビタミンCを多く含む新鮮な野菜や果物を
そろえてみなさまのご来店をおまちしております。

出荷会員募集中

自慢の農産物を出荷してみませんか?
興味のある方は下記の連絡先までお問い合わせください。

☎0846-46-1166

ふれあい市安芸津店 担当: 松本まで



※写真はイメージです。